

### 嶺北地域の目指すべき姿(産業振興の方向性)

**農業分野**・・・「れいほく八菜」などの環境保全型農業を推進し、先進地としての取組を確立し、所得の向上を目指す。JA出資型法人を設立し、農業生産の維持や担い手の確保等に取り組み、所得の向上や就業機会の創出に取り組む。「土佐褐毛和牛」等の伝統ある畜産業の経営安定に取り組むとともに、新たな産業として、「土佐はちきん地鶏」の生産拠点化を目指す。

**林業分野**・・・「森の工場」を中心に、事業体や担い手の育成を図り、また、恵まれた森林資源の適正な育成管理を行い、計画的な木材の増産に取り組む。住宅の基本構造体をキット商品化した「れいほくスケルトン」など、地域で共同して嶺北材の販路拡大に取り組む。大型製材工場の受け入れや加工施設の設置等の進捗を図るとともに、木質バイオマス利用拡大に取り組む、林業・木材産業の再生を図る。

**商工業分野**・・・消費者のニーズの多様化に対応するため、商工会等と連携して、ネットビジネスの手段を事業者等に提供するなど、地域の商工業者の育成を図る。大阪府にある土佐産直サテライトセンター(とさ千里)を関西圏における地産外商、情報発信の拠点として、多様なビジネスを展開する。

**観光分野**・・・早明浦ダムや白髪山等の活用、吉野川の水源地域における豊富な地域資源や特色ある取組などを横断的につなぐ等により「れいほく」の魅力をグレードアップさせるとともに、一元的な情報発信により、交流人口の拡大を図る。

### 主な指標及び目標

項目	計画策定時	目標	現状
「れいほく八菜」の販売額	H19: 3.0億円	H23: 3.5億円	H22: 2.2億円
「れいほく八花」の販売額	H19: 1.1億円	H23: 1.2億円	H22: 1.1億円
「れいほく八恵」のユズ加工品の販売額	H19: 3.4億円	H23: 4.5億円	H22: 4.6億円
こうち型集落営農における担い手組織の農産物販売額	H20 新規	H23: 1,300万円	H22: 347万円
米粉等の販売額	H20 新規	H23: 7,000万円	H22: 5,200万円
碁石茶の販売額	H19: 0.1億円	H23: 1億円	H22: 4~12 : 0.2億円
肉用牛の販売額	H19: 2.7億円	H23: 3.3億円	H22: 2.55億円
「土佐はちきん地鶏」の出荷羽数	H19: 1万羽	H23: 10万羽	H22: 5.1万羽
間伐の実施面積	H19: 1,000ha	H19~23 計: 8,000ha	H21~22 計: 4,281ha
木材の素材生産量	H18: 7.5万m <sup>3</sup>	H23: 8.4万m <sup>3</sup>	H21: 10.1万m <sup>3</sup>
「れいほくスケルトン」の販売棟数	H19: 10棟	H19~23 計: 190棟	H19~22 計: 175棟
公共関連宿泊施設での宿泊者数	H19: 8,975人	H23: 10,000人	H22: 1~12: 9,687人

### 成果と今後の方向性

**1 取組の成果**  
約3年を経過し、地域アクションプランに位置づけたほとんどの項目について動きが出てきている。特に、「米粉」「ブランド米」「土佐天空の郷」「土佐はちきん地鶏」「ユズ加工品」など地域の特性を活かした商品が加工品も含め、本格的に動き始め、市場も県外に広がっている。雇用面においては、ふるさと雇用再生特別基金事業の活用(28名)を中心に新規雇用が創出されるなど雇用が拡大されている。  
また、木工製品関係の事業において民間事業者が起業し、新たに人材育成などの事業展開を図るといった動きも出てきている。さらに、観光・交流関係では、嶺北地域観光・交流推進協議会が立ち上がり、町村の枠を超えた連携した取組の協議・検討とともに実践を開始してきている。  
一方、事業が動き始めたことに伴い、課題も明らかになってきている。特に、人材育成を含め事業者の体制強化、販売戦略の構築、販路拡大のノウハウの習得、また生産面における品質向上・維持などが共通した課題である。これら課題を解消していかなければ、産業としての確立は厳しいものもあり、各界の専門家のアドバイスを受ける産業振興アドバイザーの活用等をはじめ、事業のフォローアップをしっかりと行っていくことが必要である。

**2 今後の方向性**  
嶺北地域は過疎化・高齢化が年々進んでおり、動き始めた事業を産業として定着させていくためには、各分野において人材の育成、担い手の確保が課題となっている。地域内での育成に加えて、交流人口の拡大の取り組みや移住の取り組みの中での人材の育成や担い手の確保を考えていく必要がある。また、動き始めた事業の各事業者の経営の安定化も大きな課題であり、必要に応じて専門家の派遣等による経営戦略の再構築も行っていく必要がある。  
**農業分野**・・・「れいほく八菜」等の生産者の人材発掘及び育成と生産技術の高度化の取り組みを行う。集落営農組織や農業生産法人等による農地の保全や後継者の確保を行う。  
**林業分野**・・・森の工場を拡充するとともに、参画可能な事業者を育成し素材生産量の増大を図る。また、大型製材工場を受け入れるための原木の供給体制づくりや木質バイオマスの利用拡大を図る。  
**商工業分野**・・・土佐産直サテライトセンター(とさ千里)において引き続き、嶺北地域を中心とした県産品の販売を通じた地産外商の拠点として取り組む。  
**観光分野**・・・嶺北地域観光・交流推進協議会により、4町村が連携した事業を展開するとともに、嶺北広域観光・交流のコーディネート組織(人)を発掘して、更なる広域観光・交流の

### 1.れいほくブランドの園芸産地の確立【嶺北地域全域】

**取組の内容**  
・「れいほく八菜」の生産技術の高度化  
・「れいほく八花」の生産拡大  
・有利販売に向けた販売戦略の展開

**主な成果**  
・れいほく産品の有利販売(コープかがわ店舗の「れいほくコーナー」の開設)  
・集荷体制の構築に向けた取組(直販集荷システムの開始(土佐町))  
・販売額(れいほく八菜) 3.0億円(H19) → 2.2億円(H22)  
・販売額(れいほく八花) 1.1億円(H19) → 1.1億円(H22)  
・新規雇用 1名(ふるさと雇用再生特別基金事業)

**今後の方向性**  
・農業担い手の発掘・育成(八菜)  
・基幹品目及び補完品目の栽培確立(八菜)  
・高品質・安定栽培技術の確立(八花)  
・ブランド化に向けたPR活動(八花)



### 10.土佐はちきん地鶏を活用した新しい産業の展開【大川村】

**取組の内容**  
・生産から販売の体制づくり  
10万羽生産体制に向けた施設整備、販路開拓等

**主な成果**  
・10万羽の生産体制(施設整備を含む)の整備(22年度末)  
・認知度の高まり(販売増)  
・生産羽数 1万羽(H19) → 5.1万羽(H22)  
・出荷額 1,381万円(H19) → 10,496万円(H22)  
・新規雇用 9名(ふるさと雇用再生特別基金事業)

**今後の方向性**  
・高品質の10万羽出荷体制に対応できる職員の飼養管理技術の向上  
・事業者の体制や経営基盤の充実  
・食鳥処理施設の整備の検討



### 19.土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の拠点づくり【嶺北地域全域】

**取組の内容**  
・新店舗での事業展開(地産外商の拠点づくり)

**今後の方向性**  
・地産外商の拠点づくり  
・野菜供給システムの構築  
・PR活動の展開

**主な成果**  
・関西における地産外商の拠点づくりがスタート(嶺北地域やその他の高知県産品の販売拠点)  
・米粉、米粉加工品の販売拠点としての活動  
・販売額 5,138万円(22.9(オープン)~3月)  
・新規雇用 2名(ふるさと雇用再生特別基金事業)



### 20.嶺北地域の連携による交流人口の拡大【嶺北地域全域】

**取組の内容**  
・観光を軸にした地域間連携の仕組みづくり

**主な成果**  
・嶺北地域観光・交流推進協議会の設立(H22.10)  
・4町村連携しての観光パンフレットの作成、PR活動の実施  
・宿泊者数 8,975人(H19)→9,687人(H22.1~12)

**今後の方向性**  
・共同事業の展開(PPR活動、周遊ルートの設定等)  
・コーディネートする組織(人)の発掘



### 2.ユズ産地の確立と加工拠点づくり【大豊町, 本山町, 土佐町】

**取組の内容**  
・ユズの生産拡大と高付加価値化  
・ユズ加工施設整備

**主な成果**  
・ユズ加工施設・設備(搾汁ライン(800t/年)、ジュース充填ライン(36,000本/日))の拡充(22年度末)  
・生産体制の増強  
・ユズ加工品の販売額 3.4億円(H19) → 4.6億円(H22)

**今後の方向性**  
・衛生管理の徹底  
・適正在庫の管理  
・生産者価格の向上



### 3.集落営農で元気な地域づくり【嶺北地域全域】

**取組の内容**  
・こうち型集落営農モデル組織の育成(吉延営農組合、伊勢川営農組合)  
生産基盤(共同利用機器、耕作道等)整備  
園芸品目等の導入と定着  
・集落営農組織の育成

**主な成果**  
・こうち型集落営農組織の着実な事業の進捗  
・農産物販売額(こうち型モデル組織:吉延営農組合) 150万円(H21) → 347万円(H22)  
※他にブランド米あり。  
・集落営農組織数 3組織(H20) → 7組織(H22)

**今後の方向性**  
・集落営農の推進及び体制整備  
・集落営農組織の育成及び継続性の確保



### 4.米粉を活用したビジネスの展開【嶺北地域全域】

**取組の内容**  
・米粉ビジネスの展開(米粉加工品の開発、販路開拓)  
・土佐産直サテライトセンター(とさ千里)での米粉ビジネスの展開  
・「米粉の里」の展開

**主な成果**  
・米粉、米粉加工品の製造・販売の開始及び事業展開(H21.4~)  
・米粉・米粉加工品の販売額 4,300万円(H21) → 5,200万円(H22) (うち、米粉パン約3,000万円)  
・新規雇用 1名(ふるさと雇用再生特別基金事業)

**今後の方向性**  
・米粉加工品の商品開発  
・販路拡大(関西圏を視野)  
・生産・営業等の体制強化  
・販売戦略の構築  
・米粉の里の推進



### 11.間伐推進と木材増産による林業振興【嶺北地域全域】

**取組の内容**  
・森の工場推進  
・林業の担い手の育成確保

**主な成果**  
・森の工場の拡充(更新、拡大)(24団地(H22))  
・作業道開設の着実な実施(34,252m(H22))  
・間伐(面積) 993ha(H19)→1,043.86ha(H22)(H19~22計4,281ha)  
・素材生産量(材積) 7.5万m<sup>3</sup>(H19)→ 10.1万m<sup>3</sup>(H21)  
・新規雇用 4名(ふるさと雇用再生特別基金事業)

**今後の方向性**  
・森の工場の拡充  
・事業者の育成  
・担い手の育成確保



### 14.木工製品の製造・販売による地域の活性化【嶺北地域全域】

**取組の内容**  
・木工製品の企画・製造・販売  
・商品開発、販路拡大

**主な成果**  
・民間事業者の起業  
・民間事業者のノベルティグッズの開発・販売増  
・木工製品(机・椅子セット)販売数 110セット(H19~20計)→110セット(H22) (H19~22の累積365セット)  
・新規雇用4名(ふるさと雇用再生特別基金事業)

**今後の方向性**  
・販路拡大、PR活動の展開



### 5.米のブランド化による稲作農業の展開【本山町】

**取組の内容**  
・米のブランド化

**主な成果**  
・ブランド米としての認知度の高まり  
・生産者の意欲の高まり  
・ブランド米の販路拡大・確保  
・生産量 64t(2,200袋)(H21産米) →81t(2,700袋)(H22産米)  
・販売額 2,214万円(H21産米) →3,210万円(H22産米)

**今後の方向性**  
・生産者と生産量の増  
・直接販売の増等による生産者価格の向上  
・「お米日本一コンテストinしずおか2010」で最優秀賞を受賞  
・新規雇用 1名(ふるさと雇用再生特別基金事業)



### 6.嶺北大豊ゆとりファームを核とする碁石茶等の地域資源を活用した産業再生への取組【大豊町】

**取組の内容**  
・遊休農地を活用したビジネスの展開  
・野菜等の地産地消ビジネスの展開  
・加工品づくりビジネスの展開  
・ふるさと支援ビジネスの展開

**今後の方向性**  
・加工品を含めた碁石茶の販路拡大  
・作業受託による農地保全の推進  
・野菜、薬草及び山菜の取組拡大  
・集荷の拡大と町内外への販売拠点の確保

**主な成果**  
・法人化(碁石茶協同組合:H22.4)による組織体制の強化  
・集荷ルートの構築(6ルート)  
・販売額 碁石茶 0.1億円(H19)→0.2億円(H22.4~12) 直販(野菜等)4,180万円(H19)→3,727万円(H22)  
・新規雇用 3名(ふるさと雇用再生特別基金事業)

